

受賞者に聞く 第9回FD学生の声コンクールを振り返って

第9回FD学生の声コンクールの各賞受賞者のうち5名が一堂に会し、授賞式後に座談会を開催しました。座談会では今年度実施した新たな試みを振り返ってもらいつつ、声コンのさらなる活性化策等について意見を伺いました。本紙面では学生から出てきたユニークなアイデアのいくつかを紹介します。なお、座談会の様子は次のURLでも公開されています。

<http://fd-handbook.ws.hosei.ac.jp/event/>

テーマ 1

今年度実施した改善策について

【教員】 今年度の声コンでは、昨年度の座談会での提案を受けてキーワード式によるテーマを導入した。作品創作に際しての自由度を高めて書きやすくしようという狙いだが、実際、作品を作るにあたってどうだったか？



学生A キーワード化してくれたことで書きやすかった。これまでのようなスタイルによるテーマでは、シチュエーションが限定されており、縛りがきつかった。キーワードだというんなアイデアが浮かびやすい。

学生B 同じく、書きやすかった。来年度以降も引き続き、キーワード式を維持してほしい。

【教員】 好意的な評価が多いようなので、来年度もキーワード式で実施したい。今年度から、「FD川柳」という部門を新たに実施している。これは声コンの間口を広げる目的で、より気軽に応募してもらおうというものだが、どうだったか？

学生C 川柳のような韻文作品がこれまでも応募可能であったことは知っていた。しかし、入賞作品は散文作品が多かったので、正直、川柳をつくるメリットがあまり感じられなかった。部門を独立して別に表彰するというのは良い試みだと思う。



学生D 従来も応募できたことは知らなかったが、通常の声コンと違い、ウェブから直接申し込める点は簡単で良かった。実際、130を超える作品が応募されたことを見ても、応募しやすいと感じた人が多かったのではないかな。

学生E イラストやマンガといった作品についても、独立した部門を設けてはどうか。

【教員】 これまでもイラスト等について、数は少ないながらも応募実績がある。しかし、なかなか受賞に結びついていないのが実情だ。どのように評価していくのかという問題はありますが、今後、可能かどうか検討していきたい。

学生B 部門の新設に関連した話として、重複受賞はいかがなものか？ より多くの学生を表彰するという意味では、受賞を1人1作品に限定したほうが良いと思う。



学生E わたしも重複受賞はやめたほうが良いと思う。応募時に1作品に限定したり、声コンと川柳といった異なる部門に限り重複受賞を認めるようにしたらどうか。

【教員】 その点は選考委員会でも議論になった。まず、応募そのものについては、川柳については1人5作品までに限定している。一方、声コンについてはより多くの声を集める目的から応募作品数に制限を設けていない。また、我々は応募者の名前が伏せられた状態で審査を行うため、どの作品が同じ人によるものかわからない形になっている。あくまでも、作品の内容や質で評価している。我々としては、せっかく声を寄せていただいたのだから、少しでも多く表彰したいという気持ちがある。ちなみに、今年度は賞金がつく最優秀賞・優秀賞・佳作に、同一の作者による作品はなかった。応募や受賞の制限については、予算の制約も見据えつつ、今後どう扱っていくのが適切か、改めて検討していきたい。



ところで、えこびよんのぬいぐるみ等の賞品という形で表彰する「えこびよん賞」も新設しているが、こちらについてはどう思うか？

学生D 個人的にえこびよんは大好きなので嬉しかった。

学生B やはり表彰されれば嬉しいので、賞金である必要はないと思う。これからも続けてほしい。

学生A えこびよんに関心がない学生もいると思うので、えこびよん以外の法政大学グッズを賞品にしても良いかもしれない。

【教員】 先の重複受賞の件とも関連するが、より多くの応募者を称えられるよう、皆さんの意見を参考にさせていただきたい。

テーマ 2

声コンをさらに活性化していくための改善案について

【教員】 ではさらに踏み込んで、来年度以降の声コンをさらに活性化していくためにどのようなアイデアが考えられるだろうか？



学生C やはり知名度がまだまだ低いように感じる。もっと声コンの存在を周知すべきだと思う。

学生E 私の周りでも知っている人は少なかった。せっかく受賞してもみんなが知らない寂しいので、懸賞論文のように有名なコンテストにしてほしい。

学生B 去年も指摘したが、告知ポスターが多くの掲示物の中に埋もれてしまっていると感じる。もっと大きくしたり目立つデザインにしてほしい。立て看板だと効果があるのではないだろうか。

学生A FD推進センターのホームページを見る学生は少ないと思うので、各学部のホームページだったり、大学ホームページのトップ画面で告知したり、ツイッターやSNSを活用するのも良いと思う。

学生C 校内放送は耳に残るので活用してみてもどうだろうか。また、今年も開催していた声コンの特別セミナーのような企画をもっと開催してほしい。

学生D 単純に賞金の額を引き上げるのも一つ。そのほか、応募者全員の中から抽選で何かをあげるような試みがあってもユニークだと思う。



学生E たとえば、テレビでみかけるシールで投票するような仕組みを用いるなど、学生が審査に入るのもおもしろいかもしれない。

【教員】 多くのユニークなアイデアに感謝する。特に広報活動の活性化についてはすぐに取り組めることなので、皆さんの意見を参考に我々も引き続き検討し、実現していきたい。本学の学びをより良いものにしていくため、これからも学生のみなさんから声を聴いていきたい。

